

和様手本大成  
第十七卷至十九卷  
藤原公任  
藍紙萬葉  
他二

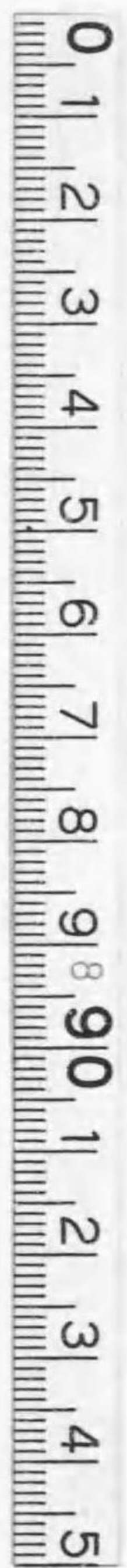
別書誌  
合冊

301  
合  
7

301-7 才17  
\*1200501367201\*

301-7 才18  
\*1200501367202\*

301-7 才19  
\*1200501367203\*



始



藤原公任藍紙萬葉

301-7



\*1200501367201\*

301  
7



藤原公任藍紙萬葉





獻子荆皇子歌三首

獻舍人皇子歌二首

舍人皇子御歌一首

鷲以作歌一首

泉河遺跡歌一首

獻弓削皇子作歌一首

柿今朝長人麻呂歌集卷之三

登筑波山詠月歌一首

幸芳野離宮時歌二首

槐亭歌一首

一歌一首



人ねま

ゆふのくさしはひまけら  
ゆふのくさしはひまけら  
ゆふのくさしはひまけら

湯乃赤塩乾全祚良志白祚之磯浦其  
牛取而傍動

ゆふのくさしはひまけら

黒牛方塩干乃浦予以よ猪酒蕨延は  
者誰妻

くふうしうしはひまけら





ふらりけりてし。きりし

藤白之三坂平越江白栝之我礼年者所

法香家

市らし。おれあ。こ。こ。ゆ。こ。し。あ。こ。あ

わ。こ。あ。こ。は。や。れ。る。こ。あ

助能の二黄葉常敷祓岳之山黄葉者今

日教遣

せれやう。こ。あ。は。け。し。く。み。あ。は

や。あ。も。こ。あ。は。け。し。く。み。あ。は

山に遶周は汝大我野之川其初成塵力  
 有仁者  
 也夫之月天にさるるゆらばけりか  
 うけりかししていふやかりか  
 本國之昔ら雄之響矢用麻取靡成と

余考安笛

十ノノのりーのクをわつれして志  
 一ノノのりーのクをわつれして志

成國余不心將は来其結其依来西心其  
 常之長柏

一云 塔の石  
 塔之長石





去山者殺遊名物三和山者亦合君約勝余  
たし上れあり。はちみはたやくも  
やれそいひわし一わさわかやみ  
春在方三史判之照月高鳴山隱惜毛  
今更上はれそよけをさしていっ月

鷺坂作歌一首

細比礼乃鷺坂山白菅自吾余は保波屋妹

余未

ほろひのりなまよきやまみしとけし

301  
7

夕暮の日は落ちてしほのしほの  
 泉河作歌一首  
 疎門入出見川乃床奈馬余三雲巻木冬鴨  
 いちのこといふてうもふゆのなやふを  
 ゆぎのこふかこふよふゆのま

藤原公任 藍紙萬葉

昭和十年六月十五日 印刷  
昭和十年六月廿日 發行

編輯者 下中彌三郎  
東京日本橋區  
 發行者 關口一男  
東京日本橋區  
 印刷者 平凡社  
東京日本橋區  
 發行所 共同印刷株式會社  
東京小石川久堅町

和樣手本大成 第十七卷

(第九回配本)

(本型等手)

終